



狛江市コミュニティ・スクール
イメージキャラクター
コミュにゃん

コミュニティ・スクール通信 NO.8

～ 四中ゾーンの五小おやじの会～

発行/令和5年1月

発行者/学校教育課

担当/地域学校連携支援マネージャー石谷

狛江市におけるコミュニティ・スクール（CS）の周知と推進を図るため、「コミュニティ・スクール通信」と題して、分かりやすくお知らせします。

五小給食だよりより(一部加筆)

12月1日(木)の給食には、八百屋さんから届けてもらう里芋といっしょに狛江五小の東門近くにあるおやじの会の畑で育てられた「命の里芋」が登場します。命の里芋は、今から77年前の1945年、長崎へ投下された原爆の熱射と爆風から大きな葉っぱが畑で働く人の命を守り、地中の芋が生き残った人の飢えを助けたと言われる里芋の子孫です。長崎で原爆を体験した小林幸子(元五小PTA会長)さんが平和学習の講話に五小へ来てくださっているつながりで、小林さんが長崎の畑から狛江に持ってきて育てていた里芋を、4年前に五小おやじの会が譲り受けました。以来「命の里芋」と命名された小林さんの里芋は今に受け継がれ、大切に育てられています。

今年は11月26日(土)に雨が降る中、おやじの会と3年生の子ども数人で掘り起こしました。

給食室で、給食で使えるようにきれいに洗って、根を取り皮をむいてくださいました。

豚汁の出来上がりです。関わってくださった方々に感謝して、貴重な「命の里芋」を、五小全校児童が味わっていただきました。

いよいよ調理開始です。大きな鍋で煮込むと一層おいしそうです。

五小おやじの会は、この取組みを狛江市全校のおやじの会に伝えていこうと考えています。原爆を直接体験した小林さんの話と「命の里芋」をセットで狛江市の子どもたちが知ることで、狛江市全体の子供たちが平和について考える良い機会になるという思いからです。

実は、このようなコミュニティ・スクールからその関係団体同士がつながっていくことを、先進地区では「スクール・コミュニティ」と言っています。こうした動きが自然に広がる狛江市は素晴らしいと思います。